

令和3年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

三者の比較

R3 生徒・保護者・職員間の比較

質問項目	3年度調査			2年度調査		
	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員
	斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上			斜体=75%未満		
1 教育目標の周知	82%	84%	95%	78%	82%	96%
2 わかりやすい授業の実施	80%	76%	98%	70%	75%	100%
3 学習指導の徹底	74%	77%	95%	66%	77%	87%
4 家庭学習・課題の点検	77%	70%	88%	71%	67%	85%
5 応用力のつく授業の実践	65%	75%	75%	56%	75%	81%
6 生活のきまりやマナーの遵守	78%	88%	93%	73%	88%	89%
7 生徒会活動や部活動の活発さ	94%	91%	95%	94%	94%	94%
8 勉強と部活動の両立	79%	80%	93%	75%	77%	94%
9 生徒への安心安全の支援	84%	83%	98%	82%	79%	96%
10 登下校時等の安全指導	85%	80%	100%	80%	77%	96%
11 希望進路の実現	90%	83%	100%	80%	79%	98%
12 卒業後を考えた指導	87%	78%	95%	81%	77%	96%
13 保護者と連携した進路指導	78%	75%	98%	71%	69%	98%
14 二高に入学して「良かった」	81%	90%	90%	80%	89%	96%
15 安全・清潔な学習環境の保持	92%	94%	98%	88%	93%	96%
16 生徒の相談への丁寧な対応	83%	80%	100%	77%	80%	94%
17 生徒の居場所づくり	83%	85%	98%	76%	87%	96%
18 保護者と連携したPTA活動	74%	74%	95%	70%	70%	94%
19 地域への貢献	86%	83%	88%	85%	85%	100%
20 学校徴収金の額	94%	94%	100%	85%	93%	98%

生徒 一保護者	生徒 一教員	保護者 一教員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
-2%	-13%	-11%
4%	-18%	-22%
	-21%	
7%	-11%	-18%
	-10%	
-10%	-15%	-5%
3%	-1%	-4%
-1%	-14%	-13%
1%	-14%	-15%
5%	-15%	-20%
7%	-10%	-17%
9%	-8%	-17%
3%	-20%	-23%
-9%		
-2%	-6%	-4%
3%	-17%	-20%
-2%	-15%	-13%
3%	-2%	-5%
		-6%

（注1）各項目をa～eの4段階で評価し、a「大いにそう思う」とb「そう思う」を「肯定的な評価」、c「あまり思わない」とd「全く思わない」を「否定的な評価」としている。

【分析1】 全体的な傾向について

肯定的な評価70%以上の項目が多いが(生徒17/18 保護者18/18 教員18/18)、学習に関わる項目で低めの評価である(5・4)。生徒の評価においては、すべての項目で昨年度のポイントを上回った。肯定的な評価が低い項目は項目5「応用力のつく授業の実践」で、生徒65%、職員75%である。項目4「家庭学習・課題の点検」は、昨年度に続き保護者の肯定的評価が70%と最低だったが、昨年度よりはポイントが上昇した。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」（生徒94% 保護者91% 教員95%）今年度も三者から高い評価を得た。コロナ禍ではあるが、様々な工夫・対策を施しながら活動の継続を図っていききたい。

「15 安全・清潔な学習環境の保持」今年度も生徒と保護者からの高い評価(生徒92% 保護者94% 教員98%)を得た。普段の清掃をはじめ、修繕箇所への速やかな対応を行ってきたためと考えられる。

「20 学校徴収金の額」（保護者94% 職員100%）適正な金額とらえていただいたと考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

【改善策等】

「5 応用力のつく授業の実践」生徒・職員で最も評価が低かった(生徒65% 職員75%)が、生徒評価は昨年度より9ポイント上昇した。他の学年に比べ2年生が56%と低い傾向は昨年度と同様である。昨年度の2年生(現3年生)は、69%に上昇している。2年生は、普段の学習が校外模試等での結果に結びつかない不満が低評価につながったと考えられる。

生徒の理解度を丁寧に把握し、日々の授業改善と工夫はもちろん、家庭学習習慣の確立と基礎基本の定着を図り、応用分野への取組も促進する。

「4 家庭学習・課題の点検」（生徒77% 保護者70% 職員88%）例年ワースト上位に入る項目であるが、今年度は三者いずれにおいても昨年度よりポイントが上昇した。保護者は生徒や教員ほど家庭学習の質や量、あるいは課題点検の状況に満足していないことが分かる。

良き学習習慣作りのため、保護者の理解を得ながら連携を強化する。また、進路目標達成のための家庭学習の必要性を生徒に自覚させ、モチベーションを高める。

「3 学習指導の徹底」生徒評価が74%で、昨年度より8ポイント上昇したものの、生徒評価の中のワースト2位である。生徒の約5人に1人が、学習指導に何らかの不满をもっていると考えられる。1年生が70%と相対的に低く、2年生74%、3年生78%と、学年が上がるに従ってポイントは上昇する傾向にある。

学習に対する姿勢や心構えについて、低年次から生徒と教員間で共通理解を図る。教員は学習進度や説明方法等を再確認し、生徒の定着度合等を確認しながら指導を継続していく。

「13 保護者と連携した進路指導」生徒・保護者では差がない(生徒78% 保護者75%)が、職員は95%である。生徒・保護者の評価が低いのは、生徒・保護者が学校からの進学情報提供や職員との連携強化、指導法等についての希望が満たされていないことが一因であると考えられる。職員が思うほど生徒・保護者は満足していないことを認識し、さらに丁寧な進路指導が望まれる。

進路学習会への保護者の参加率向上、時宜に応じた進路情報提供について、更に工夫を検討する。保護者の希望を丁寧に聞き取ったうえで、保護者との連絡を密にしながら意思疎通を促進する。

「18 PTA活動における保護者との交流・対話」保護者評価は74%で、保護者評価の中のワースト2位である。コロナ禍による学校行事の縮小や中止により、保護者が参加する場面や協力する場面がほぼ無かったことが大きな要因と考えられる。

今後も学校行事の縮小や中止が考えられるが、生徒・保護者・教員の三者が一体化して行えるようなPTA活動の在り方を模索していく。